

第2回高知港海岸景観・利便性等検討会

議 事 概 要

I. 開催概要

日 時 : 平成29年 2月28日(火) 10:30~12:00

場 所 : サウスブリーズホテル 2階 アニエス

出席者 : 以下のとおり

【委 員】

磯部 雅彦 (高知工科大学 学長)

重山 陽一郎 (高知工科大学 システム工学群 建築・都市デザイン専攻 教授)

原 忠 (高知大学 教育研究部 自然科学系 農学部門 教授)

大倉 美知子 (カラーオフィス PERSONAL 代表)

【関 係 者】

本田 賢児 (高知県 土木部 副部長)(代理出席)

村田 三郎 (高知市 防災対策部 地域防災推進課長)(代理出席)

福留 正充 (高知市 都市建設部 都市計画課 課長補佐)(代理出席)

今西 剛也 (高知市 商工観光部 観光振興課長)(代理出席)

安部 賢 (国土交通省 四国地方整備局 港湾空港部長)

松尾 義文 (国土交通省 四国地方整備局 高松港湾空港技術調査事務所長)

Ⅱ. 議事概要

1. 重点検討地区における海岸保全施設周辺の現況と課題について

○ 資料 1で整理した現況において考えられる課題について助言をいただいた。

検討会における主な助言、意見は以下のとおり。

- ・ 県立種崎千松公園の松林に防災上の働きを期待している周辺住民もいると思われるので、工事で松を伐採する場合には周辺住民に防災上の不安を与えないように配慮してもらいたい。
- ・ 桂浜公園には初めて訪問する方々が多いので、その方々の減災(避難)についても考えておくべき事項である。例えば、桂浜公園の駐車場券の裏に避難場所である桂浜荘へのルートをお知らせすることも一つの策である。
- ・ 阪神淡路大震災ではブラックアウト(停電状態)も課題となった。蓄光型の避難誘導サインなど夜間の避難を想定した対策も重要。
- ・ 津波避難の案内サインは、実際に避難する際にすぐに理解できるよう、情報量を多くせず内容を絞ったほうが良い。
- ・ 津波避難の案内サインは、津波リスクの高い土地であるように思われるという理由で増やしたがらないケースもあるが、津波避難案内サインを数多く設置していることで、「防災・減災をしっかり考えている地域である」ということを示し、安心感を与えることにもつながる。
- ・ 桂浜地区は、海岸保全施設の地震津波対策と公園再整備の連携が必要であり、十分に事前調整をお願いしたい。
- ・ 種崎地区では、新たに防護ライン(海岸保全施設の位置)を検討する可能性があるが、その場合、津波を市街地に入れないため、隣接地区の防護ラインとの連続性が重要である。
- ・ 今後、具体的な検討を進めていくことになるが、海岸保全施設の防災機能、減災効果、施工性を確保することが第一であり、そのうえで、景観等を考慮するのが良い。
- ・ 五色の石は、桂浜を始め高知の歴史を語るうえで非常に大切なものであり、観光面で大きな魅力である。何らかの形で五色の石を取り入れた工夫があると良い。

2. 配慮・工夫すべき検討事項の抽出方法(案)について

○ 資料 2の海岸利用者等のニーズ把握のためのアンケート方法、内容について助言をいただいた。
検討会における主な助言・意見は以下のとおり。

- ・ 近隣住民以外の市民が県立種崎千松公園を知らない場合も考えられる。アンケートに答える前に、現状における公園の利用・施設や海岸保全施設の機能などの情報を提供する必要がある。
- ・ 過去に起きた地震・津波をご存じでない方も居られる。安政南海、昭和南海地震時の浸水範囲、最大クラスを含めた津波浸水予測図などの情報も加えてアンケートを行うほうが良い。
- ・ アンケートの目的を十分に踏まえた上で、設問の順番を考える必要がある。また、回答にあたっては、アンケートの目的を理解してもらうことが重要であるため、海岸保全施設整備に関する設問を最初にするなど、目的がしっかりと伝わるための工夫を行った方がよい。
- ・ 地震津波対策という言葉は、施設整備から避難促進まで幅広い意味がある。用語としては、地震津波対策よりも海岸保全施設整備のほうが望ましい場合もあるので、それぞれ精査すべき。
- ・ 夏季の暑い時期だとその場でアンケートに答えてもらえない場合もあり、帰宅後にゆっくりと回答できるようインターネットを活用するなどの手法も検討いただきたい。

以上